

論文審査の結果の要旨

2021年 7 月 29 日

申請者： 林 珮秀

論文題目： 1980年代の映画共同製作という日中文化交流モデルに関する研究
—「異文化間協働階層モデル」による構造分析の視点から—

本研究は、1972年の日中国交正常化（「日中共同声明」発表）を受けて、1978年に「日中平和友好条約」が署名され、日中友好の新時代が切り拓いた1980年代において、初めて両国間で行われた日中映画共同製作の3つの作品、『天平の甍』（中国名（以下同）『天平之甍』1980）、『未完の対局』（『一盤没有下完的棋局』1982）、『敦煌』（『敦煌』1988）を研究対象とし、異文化間協働階層モデルの視点から共同製作の過程を構造的に分析し、共同製作の提案・企画の経緯、製作の過程で乗り越えた様々な困難・矛盾・葛藤、創出した広範囲の日中文化交流の意義と重要性を明らかにした。1980年代に初めて行われた日中映画共同製作が、映画が持つ総合芸術と大衆芸術の特徴を生かして、日中間の新しい文化交流モデルを創出し、日中間の広範囲の文化交流と友好親善を促進したことを論証した。

また、日中平和友好条約締結の10周年、20周年、30周年、40周年の節目ごとに日中映画共同製作が継続されたこと、2018年の40周年記念に際して「日中映画共同製作協定」新たに締結したこと、2017年の『空海-KU-KAI-美しき王妃の謎』（陳凱歌監督『妖猫伝』2017）が新しい日中映画共同製作の方向性を切り拓いたこと、これの分析を踏まえて日中映画共同製作は日中間の広範囲の文化交流と友好親善に大きな役割を果たし、今後とも継承されていくべきものであることを明らかにしたことは大きな貢献と言える。異文化間協働階層モデルに基づく映画共同製作の分析は、その成功要因を明らかにしており、今後の日中映画共同製作の指針ともなりえる。

本研究は、1980年代に創出した日中映画共同製作という広範囲の文化交流のモデルの重要性を明らかにし、日中映画研究と日中文化交流の研究に新しい視座を提示したことは大きな貢献である。研究資料の収集と分析、異文化間協働階層モデルの構築、論証プロセス、論文の形式も適切であり、博士（比較文化）に値すると評価できる。

審査員（主査） 袁 福之

審査員（副査） 芳賀 公一

審査員（副査） 長尾 宗典

審査員（副査） 王 秋菊（大連外国語大学教授）